一條法華經
四
へ遠13
1999
4

門へ 18
1999
4

一休法圓物語 巻四 目録

第一 一休未出家のこと
第二 地獄とのぞくことを見て悲しむこと
第三 一休地獄と金ふく法のこと
第四 同高貴寺に向巻のこと
第五 ぐりの物のこと
第六 あめやせんべのこと
第七 一休割札と引のこと
第八 同女高貴寺に成て来ること
第九 同海津山中まで薪のこと

十一　ものいひます

十二　一休禅師答をとつめあひます

十三　武人一休に死てかまをと問ます

十四　三毒貪瞋癡一休法問かます

十五　愚禅ぐます

十一　一休未来地獄

○武人一休に向ていはく人間死てゆくなりとつまん。たましゐはいづくにゆくやうまくもわるくもいづくにゆくやうまくもわるくもいづくにゆくやうまくもわるくも

うそうそうぬたまゝわらいてのゞあらくぽこをそ
鬼ゝゝなるうげまぶ。きくせりのごあんまゝこゆん〳〵
らぐぽ。ぎりゞくよりうそ。ぽやどゝくほくぽうと
く流ぐゞくあぐ稼うハそうどぢやゝゝゆんまねゝと
ゝて。鬼ゝゝせゝくゝ門毛流ハぐらんへなりぽゝそぐ
うゝゆくせゝゝいふぽい稼くハぐゝゆふぐゝゆりれてさ
まゝくのせあゝあいゝそろゝぢやどにゝうぽゝろ
つゝゆぐせりるゝいふぽ。ゝらゆぐゝぐゆゆんぐして
稼ゝなるゝいふゝくわまゝじぽゝのゝゝつゝハ稼ゝゝわ
かぐらなをくゝぐゝまゝあゝずゝんてゝらぽ〳〵ひ
ゝられまゝ

作ゝゝゝ　ハゝ　ゝほゝゝをなゝん
ゆんまの　燈ゝまつりゝゝ流の
ゝある時いゝふゝいゝゝのゝぐゝぐんかゝのあゝちゝやう

一代のざうもつやうにみかぶ人ばかりとうんでうの見わ
つくるものもちやうとものやうろくつくることとさ
ぶてりぞれいとうへしてこまいとわくいひまして。
まさうかくしおりんじ高門うんの流はいこだ
だうくうんそんはうう。家系図たしかひとやう
ぶんさうりくもいでしのはなることいひわらこ
りくひろめはあわをもぐるいひちくしぐるを
永代ましひつあおらくしあるんどう人
ぐさまもものつしゆ柳いどりれいらまこ
ゆるやうとおりつあまのをうやくく
ちやうといひいぐるのゆせはあく
おはくつ人とはりるれ

中二　地とのうこ
○さう刺長の天井は地とかうそとりぐうこ

ちく頃とのこりるは。面つ中へ絵のつはとの
てそれしらりづひうこ。ぱ人ふくるひつとと
間はぐうくつまあうくくしもうやうもうひ
はぐくつとりは迎とりぱ人はやうつうう
はうぐ。ちうはつぐうはとあまとしてもわまとうぐ
つうぐはさのゆーは地のうみーとんくはうく
ぐやと秋いのうこうかしおりはなしぐ何ちさ
ぐわくくくとうこうはまのこはかりとて
つくひまぐ。こうかぐうやうつまに一体和高
へのうくるはと門高ね○あくぐんうべくと
くくぐくく。和高へまりりうくくのまりてつか
やうなりぐいいかるうくいやわ高つ門ちり
はあぐうりくくぐんぐ。ぐまりりくくひとや
ちまぐ。一体こう流ひてやくくちありうぐうぐ流の去

まぐろと紙帳ばかりとなりぬ。
一切のものよりは清き色なれば清かなるべし。
きたい無中影像とぞいへなりて思へば愚
早くなんぢら自ら知れとわらへり
うく雨とまりてくるべくとそうつすべ
雨のふるまうとそうかぶ傘はあるとぞいへ
ふいとうくのなすことは何ぞまことにみるく
うなるべのうちよりとそうそうじゃ
あるべくんやまひとすぢなるんなるべ
やくけうのうちとおさめくんの内はぞいのぞ
やうなるかあるいるべしぞくんおさまるべ内すかうち
まうくひとすぐまべしくんのうすべしりのやうて内
道しるく法よくくんわんするよ。天井よ法のあり
くいふまとぞひあるくんすくんすると

なるくやくなるべ何ぞまて殺生の法の法と
殺のの内のいんのいるもとあるべるうずるくんるべ
もと専唯一ぞくいるべ

第三　一休地と食よし法すま

むかしあるくさの里よりの長者の娘とりのくて女。
弁のかりの中て殺のの法あるとじびくさ
たなくるべ。ぞあるべめるくぞくびひあんまるまと。
みるかるべすつぞるか地くるべるくるひあるくさけり。
長門のりのどくるべくとそくいるべるんくひるら
くさけるべうう一休色あるべ西くるくとやくぐ。
やくくつひくとくけるべ法くまるべくるの細くとつぶ
くくくくるべ西ぞあるくまるべくるくくく

べしと地と一休とものこそぎうの西へ入ぞうさて見ます。
かるべしとのふ蔵しぞうさてはいまさせこの
あれめてなべよ入ぞ一休御呼とゐるーたゐらよ。
なるかどうまいなるめーせびめーとあのせのの
こずらひつこまーぞこもおるあるで方代
あやうるべーと作るぞ。そこでこのせーく
ゐそるよ。落くいつすまなーびーこくく
こくまつぞ山花附とのまづ左へこうよ道すて。
地はこまを死ぞうぞ円と御どーこくいぞ
して天どれわこうゐもしさまを地。
こうはどは一つぶうてしたのこわとこもあろ
そこにすべーこはまを地と。和尚見形こうへしおさ
あくと。則かくこめくこさくく今ちくよ和する地
半僧 一休へ高見参て問答すること

○一休江戸へまいりまして洞春寺の年礼に参りつく
八人ばかりの入道ども〳〵そこのこもそこの
てゐるを下郎のものどもとおそれうちまして
とこのこのなるこずまーこあうへれまう
どいかるる酒そこちうこ人ものぞ。ぞ人和尚はうくと
こうる一休こそこそこどと見法ひもるぞ。文字ちち
ひあら梅へくくやてあうこたたくこ
けるあるぞ時ここんの高見紙形のこあるこ一
休のまんはひこまれこくぞとこくこ
かこくいこく。和ちどこの中は入こくこ海のこくを
こはまこんこうおるこ時こすこやこんこ
作へこぞこどこはこくこどこの和尚のいこ宗
つこくこわこく。高通はいこうこ何ここの和はよりおこど
こうあるやこ作こるれこ通へこくいこくぞや

うくらうとうんどをはまかうまぶあくしん禅とんよ　蜜
ついとくぶそ新まへうく仏性国禅よ角ぐとあしとの
まんてぶ入道しへうぶ名と仏とくぶべくぶ一体
のいとく禅宣道入禅宣としまうて時ぶまうまて
うくうくうくうくうくよくそのちんこうびかざを
ぶ一体よとうくうくうんぐうあふあれうと呼人へうあ。
ちうとならうしまぶ

蜜　ぐのわのまう

○一体うんうくうこ来の神金三里ぐらうとくの心里と
しのぐやうしまぶ立おのりんくぶまうこうおうくうん
やいいげくうりおはふへうぐひうんねうとくあふ
うくこ神なぶぐりうくうくうくうくうくうくうくお
けのぶげぶまうくうくなしまう一禅のぶひとけぐくを
とうまうのうくうんぐぶ成よ今はの飛へとふ

[illegible]

の一カ三孔カ佛也ちの何ともつかぬ
どおもつまん沖そうなどつかんかんもあるまじきまま
や法人しまりかしぶ
おうしまぶうまぶうまぶ
きぶさもしくまるつちのくしもろくしもろくしもろ

おりひとせいらくせんぶ○ふそんどわりうちから
うくはつよのぐつつらとなるうく
人二番目のうたは
ゐけ城つきいとぐくはるくひかさかくる
ましまし人つなるをとゆかりひてけのて
やーよひとりつ人ろく
人とも番目のうたは
面ばはとぞよいつるつい分やぶれとぶ
ぞうこうすとこでいつとはまくひやくとく
がうふいひとゆおだ一体つとうそんし治
ひ何ふゆうそうそうべとちひく
根ゆゆねとだゆのと直つてわうはす
ばてうんぶどうやつとべとはいはもちひの
るのつかうべゆうしまとゆ○くれ治へぶ三

毒よさいちくとんつくいとくとうはぶもしちあ
つくゆーわうべーぶ四ようくつあいちりあうべし
ぞとぞんよなんちあはとぞよくんぶ面よあうつて
いりわりぶもはすむこくなりぶ治○くれ治へぶ
こまへくく何ふくもとうつわうはーしのうぎはうと
とちぶもはいはる何つるゆ治ものなくべまなりまぶ
うべさくぞくぞとうのくとくと一体いなをくと奥へと
ぶぞーすぶゆあると今ふよいうまくぶ指悪しいうんな
つもなくさ

廿六　ありやせんあくつす
○うあ四拳人とべあくゆ系都一見のうゆのがりを
るゆ人のいひまるいう方を人所のばらはくで
あと一緒とつくくしべ一おい梨ちうとそんしま
ぶぞうあうくゆいとゆうくゆうあうまぶがうち

くへ秋ものまとやとさうしゆつ何方とて秋〇ひとしく
やすしもろこしのゆしみとあるこすろはとてもとり
さうするぞたりにおぼしらまとうをうひろ明名ふ
ゑ秋のまあ動又百つあるこのえうとりとあり〇ひろと
りはまとすもとやもあるたびみとんはとてうれ
秋のへとうくうとうもちひあるこうもうゆまとは
てうしやくすきぞ梅枝へのびうえとれもしへ
ゑんをけるぶんひのあまとうとうあるとうも
とうあのあらけるゆ男ようやう梅くまあどかえ
とうつうしわうかもとうとうもとうとうとうば
ようはうちうひしなしぶどひあるとゆまうんしし
づうるべかの〇をすまとゆらわさうしかやうん
うくうあんしまつひしかあるうへかつあるゆえとよはまま
へうひらうるうるべうんとあのゆうのいうりうるうしうべ

ゑんゆえともゆかるもしかゆあるあるとしくうるる野と
いへをろはゆ一体ゆあるとして名留者力もしゆおゆ傍ふ
あるうるべ門めいまもします移ようるうるを〇へあへ
ひうやうるくあるまうよかり都ひうくゆへうもうも
命ゆしうるうるあうりあるうへうくおけへずとかうるはゆ
ゆるこうるゆうるうしうるゆ名野しゆんとあり〇あるを
てへよかうくとしへけあるて秋〇ゆくゆ体ゆるるゆ
何まゆんとゆうあるゆひゆ男みゆるるしまうだうく
かまうるうるゆは十四ゆるうり京都とあり〇ひまゆ
まるるうりへあくゆゆ何そうゆうちしやうくゆまゆ
ゆるゆひとうるまとうとしてうちなどるうるてうゆ
けうゆあるうとゆ何らんゆゆるんゆゆうやうとうます
ゆゆあうしすまるゆとうりそんゆやううそこうあ
ゆんあるとあるゆうるへうるくゆとへうるゆはゆへ

さてしかるべきもの
くらぶどもの中よりとり
くらぶさんこそ
あるあめ也。八百のかこの
あいすりよりみなりさそ
こしなしでいらこそ

第七　一休割れとうたひ給へ

○かの毒の毒乃は。下京まいりつどとり中ぐらふせ
いこのあるとぐこ
さこ。こ。こ。こ

やうようをうをえてわりぷ体わりごとりんぼう
えいさくくめでしさいかぶうを面えいる
あがせどえしりうひんすかぷぜつ〇ワせいか
いかりりぷらと作ようしらえりぞまんべらる
くくぷくつのまなんぢいひうごとれてうつし
ぜとこしやしまる面わせぷやくくくし作っぷ男
しやういえいおしやうを面くくろ落せくと
まぐかりそめまもえぷりごめくくくごりの
ぢいうれなんぷうとひどぞまだひれてまくて後
つーぐうひいてわんぷ我くまとわくハ御めんゆと
くしまるぷれるうくハ作ひぷけくくなんぢっつまこ
くりなまくくぷくりかぐる面とる〇だたう
つまぷげひうぐくしさくくろ作ワ面まぷまあり。
ひやぐくとうぐひうぐくうつかきうをなりぷやくと

つまてうんがぷしぷくくりわくくたなんしっ分まい
ぐどいかるぷまぐどいい一体まるせとくべし。四ハ我わさ
ぼくまんゆうめしあなまとぐぷ紙し分まい体し。
ぷあんぢわかる一ぐんまうんぷうんぷうんゆうくやまひうんぐもわぐ
すあ浄人ぐぷうあワくくぷくりりあるあを
ぐまくくくくぷくりくくくくくくくぷくりるあを
りくんておワいまおしやうを面ハぐんづう方使は
くまぷ面すくぷりくりひいさくくりくぷそれ世中
よねまぐくあいくつひくくぷやくワまをいうくん
くくぷりぐりあくくまれ殺くくくくりけりぷき
後ぐ家まぷひうぐを一体くぐひ我まりうりのうう夢
くりくい一体一つうひ我無ありくくまくくくくハ代へ
くりぷ浄ぷまりワかぐいくぷりぷ御ぐう何くくし遅ま
ぐくくぐうぐくくくまくぐ一体れぐ世いりのお

りてと思ひのよりて酒肴にくい買て食て。よ
中よ強うわるいぞよと。ひとまき。酒をうあてぬ。ねも沖ろ。
ひよまき酒をうあてぬ。あらぐくそんぐ。ゑてくりて
ぬ。そよひんそうの分あるまひくぐをあ。とうぬ
よりさるぬ。なめ空りの。振ぜ。えハくぐうよ
ぬ。えひのくあよ。酒くよ。たてくまひ者の形てを
くかてんくくしくるこのぬひうぐとうぐのぬしあの
くぬ。しくくうら浮へかくてまけて。一休ぬひくさ形
へそくりるぬ。なめ。ねもくあの家なく
くぐぬやうのうぐとしぐさりのいおぼくだたくんと
くりくくうぐひくくおりふくくぬやくゑあん。
あるひぬ世るくくぐらぬくぐはうぐぐさりの金
主なるぐさよ。何の分ぐうぐるあくうぐひしぬくくい
めいるのかるうぬ。あぬよいくくぬやうの分ぐうぬ。

ふくくくくあしぐくんぐのひをくと

第八　一休女あるよ咲久と書付てさつけの

○母殺の分をのべくりを三四町面の分ぐいおよりあしくく
女あるぬ。一人よをくひめをる。三四をんくなくりの銭八
くくくりの方へぐん付の分ぬやくくかひくあるしぬ
の分なふくくいひくくくくぬいしくの分をいやくるんぐさ
ヒくぬんがくくくくしくのひくあくくひへくく。
ひぬをくひんよ世ひ死をくどうの分んぐくしる
夫のくくくよぐくよ者りくくくくくくひくくぬ話八ぐく
ひくくんむをくぐぬくくくくくく

そのべはまうまひうーとまたハうてあぶやうてあるのより
ちろくとがうろぷ為さうのひて被地獄乃しゝ四と書て。
えもとなんだぐ爺よりけうくれるべーぷ、愛問乃にく
よとーうくうくべーとうく法乃りきりぷりがうくひ
ゆてうつぷーゝ乃どくま問うりふうりぷ乃問よを
しうりきれたぷこてうびゆ乃ぐうとも被いれあいめい
そうなりとぷ人どくよめんどゆ西

第九　一休くいだ山中にて蘇とまひうくま

○ぷいぷうまうの蘇ゝの乃ぐうりすんぷうりぜんほうの
蘇とうりすぐいぷの山中は一者しうぷ何乃の
うりひをゝ今蘇ひしゝく乃なまぐ方よとまうりゝ蘇
よぷゝ大がどうり蘇い入道しく
世乃とすて法面とゝゝぐあやうし法ぷて所ぷいさく
かうく法まりりて一乃あ

蘇のもりども蘇もくくとうりつまぷ二三十人の蘇ま
つありりくぷりまぷ乃蘇乃大が
うりどのとゝ乃ぷを問を霊まそでもまくりまりゝ
ういうゝいえまゝ一ゝくしうまりのうりのうりふうもせん
一乃まひうくうくを法ゝゝとくぷうりのうくり四一休ゝよ
ーとうくうのひぷえハ蘇ひぷうもうねゝ法乃ぷえれがーい
えひ乃ーゝのぐやうーどやなまぐ法ぐーふなぐいすゝ
ぐんどーうりぐぷも舞ーいりあいいさうねうそぐさ
ゆまぐぷ生不乃まうもいやーく何とうんどう愛兵一
ーう不ふうゝぷぜひーく法まひなきなうぐ今和
乃やどハかなーまうどいうりくうくとゝあうけりくうあやう。
一休さうてえハめいうくあ京ゝへまりうりゝうゝうとうう
のうぷうりうくいゆうーうゝうえれがーぷうひうまう
えんどもうーうずぷぐめてえ人うひまそやゆーんと。

あまくまひ法へそ。落ふ泉乃いしかりおきいぶひと
きく入ど毛姫ともくしと。ふきりふおろとーきろ。ふび
らくふあんまーくーく。梅いろさくこうーー梅いろ。門
ろりかさろ。ゆりくとりぞれでいまひくりきくいかを
まーどぐ。ものくりびひとおりあるりどぐふどろさ。附よ
るこちとりふまひとすこーおばくひぐそもこてて
ぐくりんなまとも。ーふーまひんりすきり
ろーぐさろうろぐー法ちりおふまりの長門。きで付
きーおとすこーまふべーぞふりりの月ーこんとりろ
ばりーまくぞるぐちこまもふりとろーずーぞひち
よおろくくいひろ。ーー休春とこーとちくぐさる雅
よすこふのこりふりあひいこびりーやこぐめさこて。
うぐろりとこおくぐりーーとるひけりはどふくくく
ろくひくさこ毛とろひ今和中ふ。までもいてこ。ける

二三十人もあり侍るものどもさいつかしくぞ
ハそもそもひとりわかしまもとりとひまつぶいと
一休さんとすごしこの三月ばかりぞ
う[illegible]ましぐ七十人日よりつきそろ〳〵まらぐ
ひとまなるかしらぞうつくしまつねおこく
ひねぐらとと七十人日いとぐさしなねぬふゆ
ふくくしおこそやまぞ今夜よいかぶるまくしくと
るしぞ思ひのものどもいかやくこまひかりるさ〳〵
つまるまぞまくく七十人日何うくくまるあ〳〵
そまり秋くハかましぞさくくうんくくぞ落ふ〳〵
うりまるぞまし一休のうくいらるもんなりぞまりうる
うりしるもと思ふこの月也

半　るの初しまり

京あのひぐ山法中[illegible]

とうくうぞ法師人やぐとうくぞ始うくぞ初うそてき
ふのやとねとうくうぞまんようくうくやのまんを
とうりあんとする時なんぢをうやを何ぞうれ
ていづるぞくいつぞひりのうしぐよおりひて今人の
おくうる耐かうくもなれが何りのうやひつんとおさ
ぞとうんをまどもく人もなをまぞうくねぐかみく
わうよぞまさかさひくくされのぐくよいつぞとくき
けぐるのやいつやぞくくうりぐまのまうあと世ひ
るまひうくなんぢはむまの身とうくあぐ今何と
やんいひつるぞいる旅ひへとくぞひくしぞひるのいく
やうぞ我ハひ考えるのおくなるぞ[illegible]くぞ鬼のを
ひとあつくのうひまし[illegible]ぞ法うずるまも
なくしくむあしく旅ひとんとやうぞんうあよこに
ならくまるなるぞくやたうぞおひやさまくく今

業の本也。是をすまはいりてやとひめのしと云。何
山人わさまをくさまを日はそこにらぐまりうをまよ云
うくしと叫こゆ。幸に大こさにおどろこさ。掘こうざ
つまうぶいうぐあんを思ふ。楽しけうぶ。ぞよ。流おひひや
出ろこ。一休和尚（まいりうくこのまりやしひや
ぐ、和尚まいりてみさつ。ぞ。ふいとうくこうよ
一休こうこ。ぞ。ふびんつまぬ。退居と云
ぞとて書生風流とうこわくこうひ。ぞ。二十日つ
寄よ。明十帝よつぎこくいこぞこくあつこあか
ぞこあよこ。ひこうぐられこうひこ。ぞこよ。佛和尚の
御ろんぐこよあべこ。ぞ。ぞこ。ぞ。ぞ。ぞ

ねうぶ。ぢらく。もとうひそんぷう同ケ年ようし
休うろうすつぷそ法和尚ぶ。ぶ。一服いあ
しくわうし。はぐ。ぐ。ぢ。ぢ。大文一象のつぐよてし
そ。ゆ。そ。わ。ひ。ゆ。ぷ。義清。さ。ぢ。ぢ。そ。ぶ。ぐ。ぢ。わ。
さ。い。ち。い。な。り。く。ぶ。ぢ。ひ。く。ぷ。す。ぐ。く。と。ち。ぷ。ち。
よ。ぷ。ぢ。く。く。ぢ。ひ。ぐ。ぷ。一休。ひ。ぷ。ち。ま。ち。ぶ。ち。
ぶ。ぷ。ぢ。ぷ。財。義清。い。ち。く。。世。一。ぐ。ん。と。て。く。ぶ。め。ち。ぢ。
しあ。ま。ち。あ。ち。と。ち。ん。ぢ。里。園。ぷ。や。く。ま。ち。ま。ち。
ち。く。ち。の。ぢ。ぢ。ち。一休。ゆ。ぢ。て。。世。ぢ。あ。ぢ。ん。ち。ゆ。。新。ぢ。一
ぐ。ん。ぷ。ま。ん。く。ち。り。く。ひ。ん。ぢ。ま。ち。ん。ぢ。一。服。ま。ち。ん。ぢ。。。鬼。ゆ。ち。
ぶ。ち。く。ち。ん。ぢ。あ。ち。ち。ち。ぶ。。。

○ある人一休和尚くいてく何しれあつてくせつなり
ゆくかりさらばとて人ろのつきやうぐとうんずるぞ。
おもしろくおもしろくいくらうて一休しをぞ。
大ていさたぐらゆさきろのいまたまありくらい
くあるもしつまもさうぞいうやくのれは何とあつ
みしくかくしていすもあつまのこちろ法りくか
きまりしも過やうくあらこらしすまあひつで
あるこちらぐきを車乃庭しまあぐ御ぐ。ぶこうぐん
まあこちかゆうんかぞしこうきまちぐやうまあう附
ハまちまくいまれなあてなら作りを一休く

死くくかちいりぶりのしぶあてん
りくさのぐんで紫しでぶこう
とぶくまこうんだぶ山人ちまれあつまろ口のまこと
いぐしぶふしぶどれとうまひまろぐへそでぶへ乃

いひりうんぷさうりとくぶ門角ぶくとうんおりぶ法ぶい
まくさゆくもあうりゆくぐうくしひくしもいまくさいう脇ま
やうんぶ乃ぶあなぐぐぶ法くうさうんん人一休まくと
とくぶゆくしおくりおくりそこいまれよ
ゆくくしおくくく

とりひきの一体善云　結人数へ生ずこと
毒眼見せりっ主と
ばかくよへまを矢ばかり
しきらさるべきや　又法泉こと毒いん
見るべし　まず右てい
つらどっなんかしこ
ひずしつ　ともこ
しりとりくもの
いくそれ人ごへしや
らばんくいわと
かあったぐんくと
どっへかさひしまと
せるまおはっそれく
なりっへるかやめさい

ぐんかくとあるようをあるくまぢとこぐくわくせめと
くくさらずんで衆僧すくまぢやうなわっ
ばよさらずくく命おっくだぐくさんまを矢とて
なりしもやるぐしいっさかっぐくとい
いやうふくさるべくやしらひ法へだ一体それい
めくかぐしやうとさくしらん出すくくこと
づくかしくんかはくをあうるし用そのまま仏也
時よ前まし仏図新一ふ用也とたりしるる
一切のの前まし仏面ぐてな
へくうりのい面まひ一体ん
こうでかぐかくにすざと法ん時っ法泉いくん
ぐまひくり
中右　電泉こと
○一体五世の法泉とりいしやわっ法と

4年 6月

和尚と申す御ん人。おそろしい我行のあいくにこられ
ぬるとうじなどくおそれひろれども。くゆるさ〇ひとりこと
あくさんどもに人よりもとんこあなれど。栗田口の法
師おへの道名なるとゆらうそうとそこてで。そこと
つとよどんよりもなれば。あくまよりてはもよりくあ
さんみの和い和尚よりうものありこうぐしとおと
ひろくさうどうのうとてよりこと一のうのと
角ん山のやさしもの法衆と
ちうねんくしうあらもなりまれ
やうよりあさこそとさうさうさうに一休そとうりんあひて
やうくそんへうどとそこしはふ
角ん山のくやさしもまうの色衆と
しやうんあうのうりはさよ
一休ばなし終

[illegible]

[illegible]

[illegible]